

授業科目 成人言語障害学Ⅰ

【担当教員名】 栗崎 由貴子		対象学年	2	対象学科	言語
		開講時期	前期	必修選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	◎	◎	◎	◎	
【概要・一般目標：GIO】 成人脳損傷者のリハビリテーションにおけるチームアプローチに専門職として参加するため、成人に生じる言語・コミュニケーション障害（失語および右半球損傷・認知症・頭部外傷などによるコミュニケーション障害）の言語症状の特徴や鑑別の方法を理解し、他の専門職との連携のあり方について認識を深める。					
【学習目標・行動目標：SBO】					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 失語症学の生い立ちについて説明し、その発展の概略について述べることができる 2. 失語の発生のメカニズムについて、原因疾患と病巣を中心に整理して述べるができる 3. 失語の言語症状を説明するとともに、他の症状と鑑別することができる 4. 失語の分類名列挙しその特徴を述べるとともに、典型例については他から鑑別して同定できる 5. 失語と鑑別すべきコミュニケーション障害を列挙し、主な鑑別点を説明できる 6. 失語のリハビリテーションの流れについて、チームアプローチの観点から説明できる 7. 失語の予後についてその概略を説明できる 					
回数	授業計画・学習の主題			SBO番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	失語症の概要			1	講義
2	失語症の基礎 1			2	講義
3	失語症の基礎 2			3, 5	講義
4	失語症の症状 1			6	講義
5	失語症の症状 2			6	講義
6	失語症候群 1			2	講義
7	失語症候群 2			3	講義
8	失語症候群 3			4	講義
9	評価の流れ			4	講義、VTR
10	評価の実際 1			5	講義
11	評価の実際 2			3	講義
12	総合的失語症検査 1			3	講義
13	総合的失語症検査 2			3	講義、VTR
14	振り下げ検査			1-7	講義
15	まとめ			1-7	講義
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		標準言語聴覚障害学 失語症学	藤田郁代 編著	医学書院	2011・5,600円＋税
		言語治療マニュアル	伊藤元信・笹沼澄子 編集	医歯薬出版	2010・6,720円
参考書		よくわかる失語症と高次脳機能障害	種村純・鹿島晴雄 編集	永井書店	2003・9,450円
		失語症言語治療の基礎	紺野加奈江	診断と治療社	2001・3,500円
その他の資料					
【評価方法】 期末試験により評価する。			【履修上の留意点】		